

--- 畑と寄り添う、山の宿 ---

集落調査を活かした農宿場の設計

172016 久保田章斗



研究の背景

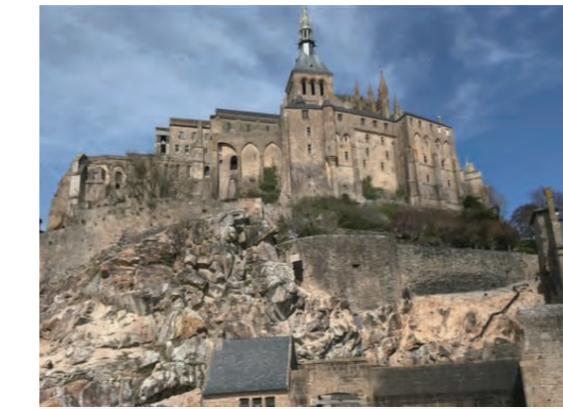
1. 祖父とみかん

生まれは静岡市清水区蒲原である。幼少期からみかん農園を経営している祖父の手伝いをよくしていた。祖父は「山に人がきてほしい」と語っていた。私は建築により山に人を呼ぶことができないかと考えた。



2. 境界への関心

2018年3月にフランス郊外にあるモンサンミッシェルに訪れた。建築の内と外を何度も行き来する感覚が心地よく、感動した。同時になぜ良いのかを考え始めた。この経験より、壁が生み出す境界に関心を抱いた。



蒲原と農業の問題

蒲原の山の農業には2つの問題がある。1つ目は農家の高齢化と後継者不足であり、2つ目は耕作放棄地の増加である。これらの問題を解決するため、建築によって山に人を呼び農業の魅力を伝えようと考えた。



集落調査を設計に活かす

集落は多種多様なものである。その中でも、傾斜地や高台に農業を生業としている人が集まっている場合がある。そのような蒲原と似た特性を持つ集落を調査することにより、建築設計に活かそうと考えた。

